

# 令和6年12月立山町議会定例会一般質問・質疑通告概要 (令和6年12月11日)

※この資料は、議員から提出された通告書のまま作成しています。

## ○ 一般質問・質疑順番

1番	坂	井	立	朗	議員
2番	澤	井	峰	子	議員
3番	岡	田	健	治	議員
4番	髪	口	清	隆	議員
5番	平	井	久	秋	議員
6番	伊	東	幸	一	議員
7番	松	倉	勝	実	議員
8番	堀	田		努	議員
9番	後	藤	智	文	議員

## <一般質問>

### 1番 坂井立朗 議員

#### 1 読解力向上プログラムについて

今年度で一つの節目を迎えるが、新年度はどうするのか。個人的には継続を希望する。

#### 2 全国学力テストについて

- (1) 県全体では小学校の順位が若干低下しているように感じるが町の子どもたちの結果は。(公表できる範囲で。)
- (2) 町では、小学校が上位で、中学校では順位が低下する傾向であったが今回は。(公表できる範囲で。)

#### 3 食の貧困について

民間団体の調査では、ひとり親家庭の34%で夏休み中、1日2食以下との回答のこと。町の子どもたちの実態は。調査の必要を感じるが。

## 4 庁舎敷地内の駐車マナーについて

役場正面の障害をお持ちの方や妊婦さん専用のスペースに、健常者が駐車するのを見かける。周知の徹底を。

## 5 立山の環境保全について

室堂周辺での登山者によるマナー違反が後を絶たないと報道された。町としても対策の必要を感じるが。

# 2番 澤井峰子 議員

## 1 防災・減災対策について

11月末に再び震度5弱の地震が石川県で起こり、しばらく余震が続いていた。油断なく、日々危機感をもって備えることを改めて実感している。

- (1) 町民体育館を指定避難所としていた周辺の住民への周知・対応は示されているのかを伺う
- (2) 指定避難所となる小中学校の屋内運動場について、令和8年夏までにエアコン設置をする計画だが、全体的なスケジュールを伺う
- (3) 災害ボランティア研修を通して、「みらいぶ」では受入れが難しいとのことであった。いざという時、災害ボランティアを受入れることが可能な場所の設定や体制が重要である。町の見解を伺う
- (4) 能登半島地震以来、トイレトレーラが注目されている。自治体で導入するところもあれば、民間と提携している自治体もある。町の対策とイベント等で町民に実際使用してもらうことも必要と思うが町の見解を伺う

## 2 高校生支援について

県教育委員会は、県立高校 2025 年度の入学生からタブレット端末 1 台 75,000 円相当を保護者負担とする方針を固めている。

入学説明会を受け、5月～8月までの準備が求められている。個人所有の持ち込みも可とされ、県としても経済的事情で費用負担が困難な家庭に対して支援策を検討しているとのことである。

- (1) どのような支援かは分からないが、こうした支援は所得で判断され、わずかの違いで県の支援対象外となり、かつ個人所有もない等、タブレット準備に支援が必要なご家庭があると考えられる。そうした家庭に対して町として支援する体制をお願いできないか見解を伺う
- (2) 例えば、小中学校等の更新で使用しなくなった chromebook の再活用が可能かを伺う

### 3 教育について

- (1) 中学校の部活について地域移行の進捗を伺う
- (2) 読解力事業の進捗・成果を伺う
- (3) GIGA スクール構想で購入した端末が順次更新されるなか、端末のリユース、リサイクル、データ消去等、処分計画を伺う  
また更新で不要となった端末を教材に、ごみやりサイクルについて授業を行っている地域がある。町の取組を伺う

### 4 子宮頸がんワクチンキャッチアップについて

キャッチアップの期限が令和7年3月31日と迫っているなかで、国はこの夏以降の大幅な需要増加により限定出荷の状況等を踏まえ、期間延長を示している。

- (1) わが町の接種状況を伺う
- (2) どのような経過措置となるのかを伺う
- (3) 町としての周知、安全性の情報提供等対策を伺う

### 5 農村 RMO について

立山町にとって魅力ある取り組みであると期待する

- (1) 釜ヶ淵地区で取り組む農村 RMO の実績と今後の取り組みを伺う
- (2) 釜ヶ淵のノウハウをモデルとした他の地域での今後の展開を伺う

### 6 詐欺対策、闇バイトへの注意喚起について

年々詐欺の手口が巧妙化し、多様化している。また、隙間の時間を使って気軽にバイトができることで、闇バイトと見破れず、加害者となる事例が若者だけでなくシニア世代にも全国的に多発している。

町として、幅広く注意喚起していくしかないと思うが、対策を伺う

## **3番 岡田健治 議員**

### 1 地鉄沿線に中新川に1校の中高一貫の誘致を

県立高校の再編で20校程度に絞ると新聞紙上で発表され、それに符合するかのようになり2日後に2060年の立山町の人口予測が発表された。だから、高校は各町々に要らないんですよ。と含みをもたせているのかのような意図を感じさせている。

提示された人口から言えば、上市にも立山にも各1校の高校は存在しえないのではないかと。それな

らば、地鉄沿線に中高一貫校の設置に早めに舵を切ったほうが良策でなかろうか。立山線から 500 m以内、且つ本線上市側駅から 500m以内が適地として考慮されるが、単独校で生き延びられる 20 校に成り得るか。

早目に中新川に 1 校、それも中高一貫校の提案を上程する気はないか。それが、立山線の存続と合わせ持って良い結果をもたらすのでないか。

## 2 稚子塚から北部方面路線に公共交通の開設を

町長は、稚子塚からリュックを担いで歩いてモンベルを訪れるハイカーやトレッカーがいることを知っているか。

これらのハイカーやトレッカーにとっては、高々 1 km・2 km の道のりは、山歩きを趣味とする彼らには平地の歩きは苦でもなんでもなかろうことは想像に難くない。

9月議会でも大日橋を通過している 2 路線のうち 1 路線でも北部方面線に変更し、北部小・湯めぐち、モンベル、シマヤ、常願寺川公園、富立大橋を經由して、富山駅行きに変更できないか。と質問したところであるが、元大和、現在のガラス美術館・図書館（TOYAMA キラリ）から、旧山室駅、現在の不二越駅までは旧市電が走っていた。現在もその線路はアスファルトの下にある。それを掘り起こして、県道富山立山公園線に這わせて、稚子塚までライトレールで繋ぐことはできないか。

今は亡き中田議員、堀遺族会長の悲願でもあったが、調査費をつけて研究する価値はあると思うが、どうか。町中の買い物支援にもなり、周遊も関連できるのでないかと調査費計上する価値はあると思う。

## 3 上市警察署の再編と山岳警備隊の支援を

従来、警察は忌み嫌う要素的からか、他の町村に在っても、自分の町村には要らないって感があったと意識するが、昨今の海外からの詐欺事件、闇バイト等の犯罪外国人による銅線窃盗事件など従来の思考では考えられない犯罪が多発している。

折しも、富山県警では警察署の老朽化と人口減対策の一環として、警察機関の再編が計画されていて、審議が進んでいると聞く。立山町・上市町・舟橋村を管轄する上市警察署と滑川市を管轄する滑川警察署の合併が俎上にあがっていて、滑川市寄りが強いと聞こえてくる。となれば、上市署はなくなり、山岳警備隊は滑川市から、走ってくることになる。

日本で唯一の国立登山研究所を抱え、山岳信仰の立山連峰、夏山と言わず、冬山登山のメッカとしての北アルプスの保全・警備等ピッケルを持った警察活動の維持・活動の支援をすべきだと思うがどうか。

旧中新川郡とは言え、やはり上市に無ければなるまい。現在の管内人口は 76,492 人、2060 年の将来増減指数は 45,466 人と見込まれる。配置される警察官も 80~90 人となろうと思われる。綱引きも難しいと思うが、山岳信仰の抱える立山町としては「劔・立山」から山岳警備隊も離されまい

と思うが、頑張ってもらいたい。

## 4 超高齢化と超少子化時代の大幅な人口減の対策を

先般、2060年の将来人口増減指数が発表された立山町の人口は、13,784人で55.6%の減少との予測である。

緩やかな人口減に努めるとした施策を実施していると発言していたが、対策は成功しているか。現行策は破綻していないとすれば、成果をどう分析評価しているか。

## 4番 髪口清隆 議員

### 1 高校再編について

県総合教育会議が11月20日に行われ、県教育委員会は2038年度までに県立高校を34校から20校程度に、約4割減らすとし、長期的な方向性を明示した。

大中小規模に分けて再編を進めるとみられており、年度内に基本方針を定めるとのことで、これまで行われてきた個別の学校の統合ではなく、県内すべての学校が対象となると思われる。

以前から言っているが、地鉄立山線の存続や地域の衰退を防止し活性化するためにも、立山町内の高校を無くすわけにはいかない。

県内に無い中高一貫校を検討し、提案できないか。

### 2 不登校について

2023年度、全国の小中学校において不登校の児童生徒は11年連続で増加し、34万6,482人で最多となったと、文部科学省の問題行動・不登校調査でわかった。そして富山県内においても、不登校の児童生徒は1.2倍の3,255人と、過去最多を更新した。

- (1) 立山町内における不登校の現状は。
- (2) 不登校の原因は一人ひとりさまざま違っている中で、いじめや暴力行為も増加している。それらを見逃さない体制や、支援策はどの様になっているのか。

### 3 障害者就労について

障害者の方は、障害のレベルや状態によって区分されていて、その障害の特性や心身の状態には個人差がある中で、働きたいと思っている人は多いと聞く。

就労を希望する障害者のニーズや社会経済状況が変化するなか、障害者が働きやすい社会にするため、それぞれの障害者の希望や能力に合った支援の提供が求められている。

- (1) 立山町ではどのように周知し、手続きも含め支援しているのか。
- (2) 町内にも障害者施設はあるが、在宅の方の居場所づくりが必要だと思われるが、対策はあ



になっているのか。

- (2) 答弁では、例えばという表現だったが3年以上の耕作放棄の場合と言われた。今は1年以上となっている。厳しすぎるのではないか。
- (3) 厳しいと思われる条件の中で計画どおりの課税をするのか。また相続放棄の相談などは出していないか。

## 4 AEDの利用について

いざという時のAEDは大変有効だが、その使用に当たっては、常に利用可能かという点と意外と不便な状況にあるのではないか。

- (1) 現在町で設置しているAEDは、どの施設に何台あるのか。
- (2) 利用に当たっては、どのような場合を想定しているのか。
- (3) いざという時に使えないと意味がない。365日24時間使えるように工夫すべきと思うが、いかがか。富山市は避難所の一部を蹴破りの扉にする予算計上した。これを活用しAEDを使えるようにすればと思うが、いかがか。

## 5 岩嶽寺駅前公園の循環池について

地鉄立山線で駅前公園を持っているところは岩嶽寺駅しかない。住民の憩いの場にもなっているが既存施設の劣化が激しく危険だ。

特に駅からすぐ南側にある循環池は、20数年前から作動していないと記憶する。水が抜かれた池だが、落葉で雨水が常にたまり夏にはボウフラがわく。周囲のタイルは雨が降るとすべり、深さ50センチを超える池に落ちたら大けがをする。今後解体撤去を含め、危険な施設を管理してほしいと思うがいかがか。

# 6番 伊 東 幸 一 議員

## 1 令和5年6月28日白岩川豪雨災害復旧の状況について

東谷地区を中心に襲った令和5年6月～7月の記録的な豪雨により「国の災害」として認定された箇所への復旧の状況は。

- (1) 県の白岩川の災害復旧工事について。
- (2) 町道や河川の公共土木施設について。
- (3) 農地・農業用施設について。
- (4) 林道復旧事業の今後の見通しについて。

営農関係者から「いつになったら田んぼができるのか」等の問い合わせをいただいています。

引き続き、営農関係者の皆様との連絡を密にして農地・農業用施設の復旧、復興に努めていただ

く事をお願いします。

## 2 日本型直接支払いについて

### (1) 中山間地域等直接支払交付金第6期対策

生産条件が不利な傾斜地での営農継続に助成する「中山間地域直接支払交付金」で加算措置を見直す。「集落機能強化加算」は本年度で廃止。一方来年度からは人材確保や営農継続に向けて集落間の連携を後押しする「ネットワーク化加算」「スマート農業加算」を新設する。

立山町における事業概要、現状と課題等を問う。

### (2) 多面的機能支払交付金

近年の農村地域の高齢化、人口減少等により、地域の共同活動等によって支えられ、国民全体が享受している多面的機能「国土保全、水源涵養、景観形成」等の発揮に支障が生じつつあることから、平成27年度から「農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律」に基づき、地域の共同活動による多面的機能の発揮を促進制度

農地法面の草刈、水路の泥上げ農道の路面維持等、農村の構造変化に対応した体制の拡充・強化、地域資源の保全管理に関する構想の「農地維持支払」

水路、農道、ため池の軽微な補修、景観形成や生態系保全などの農村環境保全活動

老朽化が進む水路、農道等の長寿命化のための補修等の「資源向上支払」にご苦労されながら多くの集落組織で取り組んでいただいています。多面的機能の更なる増進への支援・拡充・強化の対応を問う。

### (3) 環境保全型農業直接支払

みどりの食料システム戦略の実現に向けて、農業者の組織する3団体が取り組んでいると聞く地球温暖化防止や生物多様性保全等

国が今後一番推進したい、支援対象取組、有機農業の新規取組者の受け入れ・定着に向け活動取組拡大等を問う。

## **7番 松 倉 勝 実 議員**

### 1 富山地方鉄道再構築について

富山地方鉄道は、会社として自力復興が困難に思える。大切な公共交通機関として、地元県民の通勤通学に必要な存在である。又、立山黒部アルペンルート、黒部宇奈月キャニオンルートの観光としても欠かせない存在である。再建には、県の試算で600億円が必要との推定、国が300億円、県が150億円、7市町村で150億円と聞く。

- (1) 今までの県、7市町村、富山地方鉄道の9団体による懇談状況を。
- (2) 再建は可能なのか。どの様な再建方策が検討されているのか。
- (3) みなし上下分離を考えているようですが、そのメリットデメリットについて伺う。
- (4) 現在の寺田駅の状況をいいます。トイレは和式である。ウォッシュレット無し。膝の曲げられない人は利用が難しい。

観光宣伝、称名滝のポスターは一枚、それも駅舎にだけ。ホームには一枚もなし。立山線ホームには昭和30年代の宣伝がそのまま放置。屋根には穴があき、雨漏りがひどい。能登半島地震で、駅舎内がやや隆起したとみられ、割れが目立つ。みなし分離で、駅舎の改善が図れるのか伺う。

## 2 少人数学習の推進について

少子化の中、学校統合が身近な問題として浮上している。立山小学校、釜ヶ淵小学校が、小規模特認校を選んだと聞く。高野小学校、立山北部小学校、令和10年以降複式学級となると考えられる。この時期に、生徒個々本来の能力を伸ばす上で、少人数での学習で見違える教育効果が図れば、統合が無くなり、すべての地域に活気が永続できると考えている。

- (1) 小規模校と大規模校のメリットデメリットを伺う。
- (2) 算数国語の2教科は、必須であり落ちこぼれるとそのまま、救済が難しい。そこで、2倍3倍の時間を与えて最低限の能力を持てればよいと思うが是非を伺う。

## 3 防災担当者に女性担当者の配置について

地球温暖化は、近年深刻な問題として世界中で注目されている。線状降水帯の発生も、これが原因といわれる。避難所開設には、そのノウハウが必要である。

- (1) 総務課に、今女性防災担当者がいるのか伺う。もしいないのであれば早急に人員を付けるべきではないか。
- (2) 立山町に女性防災士が何名いるのか伺う。10地区各々最低でも5名の女性防災士を育成して欲しい。

## 4 少子高齢化社会における単独世帯について

2050年富山県は、5世帯に1世帯が65歳以上の高齢者単独世帯になるようである。昨今、少子高齢化のなか、3世代同居の世帯が少なくなり、単独世帯の増加が進んでいる。これは、災害時の自助が困難となる。

- (1) 現在、立山町の高齢者単独世帯は、どのくらいあるのか伺う。
- (2) 高齢者単独世帯に対する生活実態アンケートを実施してはどうか、今後の課題と対策が浮かび上がると考える。

- (3) 介護に関する課題と対処について当局の実情を伺う。
- (4) 健康寿命の底上げに対して実証事業があれば伺う。

## **5 上下水道の耐震化について**

新聞報道によると、水道施設より発がん性物質が全国で2割検出された。富山県は、47都道府県で1県だけ検出されていない。富山の水道に誇りを持った。

水道管の耐震化についての報道もあった。これは、全国平均 2022 年度 42.3%に対し富山は、43.5%平均より良いでは済まされない。地域間格差が激しいという。1位が神奈川県 of 73.6%、低いのは、高知県の 24.8%という。政府は、28年度までに国土強靱化基本計画で60%に引き上げる目標という。

- (1) 立山町の耐震化率と28年度60%をクリアできるのかを伺う。同時に下水道についても耐震化率を伺う。
- (2) 漏水管の検出に人工衛星とAI技術により成功との報道もあった。今後の漏水発見はもとより耐震化の優先度に採用してはどうかを伺う。

## **6 営農型太陽光発電について**

営農の将来を思う観点より多角経営としての太陽発電の併用、又、耕作放棄地の再利用を鑑み質問する。

- (1) この営農型太陽光発電を採用している声を聞かない。立山町での採用の有無を伺う。
- (2) 採用の件で質問等、当局に申請等あるのかメリットよりデメリットが上回っているので採用されていないのかを伺う。

# **8番 堀田 努 議員**

## **1 立山駅周辺駐車場の有料化について**

立山駅前駐車場に約3時間車を駐めて、退出しようと財布を準備して料金メーターまで進んだが、料金表示が0円だった。大いなる違和感を持った。本来は無料なのでうれしいはずなのだが、これでいいのかと疑問が生じた。複数日、長時間の駐車が自由で無料であればおのずと他の駐車台数が限られてしまい、繁忙期には日帰り客が駐車できないという声も聞かれる。

- (1) 管理費として駐車料金を設定してはどうか。扇沢、信濃大町の駐車場は有料である。町としての見解を問う。
- (2) 称名滝駐車場も無料だが、現地には管理するスタッフが常駐している。こちらも経費がかかることから、有料化を考えたらどうか。国立公園の雄大な雰囲気を楽しんだということで、寄付を募る名目で、駐車料金を設定してはと思うが、見解を問う。

## 2 登山バス利用客用のトイレの設置を

立山 IC からアルペンルート目的地までの行き帰り、バス利用客のトイレ休憩は大型商業施設を利用させてもらい、いわば、甘えたままであった。しかし、それも限界があるはず。中間地点に、公設でバス利用客用のトイレの設置を望むが、見解を問う。

## 3 雄山高校に新学科を

これまでに雄山高校に新学科新設の要望をこの一般質問の場でも多く提案された。過日、雄山高校生による立山町の活性化についての提案発表会があったが、生徒の発想は斬新で真剣味にあふれた、素晴らしいものであった。現在大学においても、地域創造学科や、観光まちづくり学科など、かなり具体的で地域密着的な学部が増えてきた。高校、大学と一貫した教育課程として、雄山高校に前述の地域創造学科、観光まちづくり学科などの地域密着化の学科を設置してはどうかと思うが、見解を問う。

## 4 放課後児童クラブについて

放課後児童クラブ、学童保育に携わっているスタッフの皆さんには、多大なご苦勞を担われていることに、深く感謝いたします。人員の問題、時間等の勤務環境の問題など、困難極まることが多々あると思うが、はたして、入所希望者の受け入れのキャパシティーまた、入所待ちなどの現状について問う。

# 9番 後藤智文議員

## 1 暮らし応援について

(1) 政府の経済対策として「重点支援地方交付金」(物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金)が補正予算に組み込まれた。活用について問う。

① 来年度、物価高騰から学校給食費の上昇があると見込まれる。実質賃金が下がっている中で、給食費の値上げは子育て世帯の生活は大変厳しくなる。本来の希望は給食費を無償化すべきと思うがなかなか難しい。この交付金を使って給食費の上昇分を抑えるべきと思うがどうか。

② 地方創生臨時交付金は、低所得世帯に対しての給付金はあるが、物価高騰はすべての世帯に影響を与えているのが実態だ。今回の交付金には新メニューとして、地方公共団体における水道料金の減免にも対応している。町民すべての人への物価高騰対策として、水道料金の減免は検討すべきと思うがどうか。

(2) 昨年5月からすべての自転車利用者に対してヘルメットの着用が努力義務化された。富山県のヘルメット着用率は大変低い結果が出ている。ヘルメット購入補助を出している自治体は多い。命を守るためにもヘルメット購入に補助をすべきではないか。

(3) わんパック事業について

昨年調査では使用率が約4割という中、果たして継続は必要かという声がある。この3年間の費用対効果をどう評価されるか。

(4) 学校体操服の補助について

学校指定の体操服は、値上げ幅が大きく高額になっていて保護者負担が増している。体操服に対して購入補助を検討しても良いのではないか。

## 2 県立高校再編問題について

(1) 14年後に、現在ある34校から20校に再編成することを県教委は示した。このことに関してどう受け止められたか。

(2) 大・中・小規模校を示しているが、大規模校は多くて480人、12学級という大変な学級数になる。逆に小規模校は、120人以下という。様々な弊害が出てくると思うが、子供数が減る中で少人数教育を取り入れていくべきである。特に大規模校は問題が多いと思う。3つの規模に分けられたことをどう捉えているか。

## 3 防災対策について

石破総理が訴えている災害から48時間以内に避難所に設置する「TKB48」実現に向けて取り組むべきである。Bの段ボールベッドは備えてあるが、下水道施設が使用できない場合に備えて、交付金も準備されているトイレカーの設置は検討すべきではないか。

## 4 地熱発電について

富山県は、自然エネルギーの地熱発電について導入を立山カルデラで図っていたが、事業化は困難とされた。しかし、新技術の開発で可能になるかもと言われている。新たな観光地としての視点からも、県に対してもう一度、地熱発電に取り組むよう要請すべきではないか。

## 5 教育について

(1) 全国での不登校や暴力行為は23年度最多となっている。

① 町での不登校児は何人、暴力行為は何件あるか。

② 不登校の原因は様々あるが、少なくとも学校は安心して学べ、楽しく通いたくなる学校であらねばならない。現状の認識を問う。

- ① 暴力行為は「気持ちを言葉で表現できない」ので起こると指摘されている。そして、教員は仕事に追われて話を聞けない」とも言われる。子供の暴力は「苦しい」という心の叫びになっており、それを受け止める教員は心の余裕を持てる環境になっているかどうか問う。
- (2) 町内小・中学校体育館に令和8年度までに空調設備設置をと動き出している。大変うれしいことである。これまで多額の費用やランニングコストがかかりすぎるなど、困難と答弁されていた。建設に舵を切った理由と財源について、そして、今後の建設スケジュールについて問う。

## 6 電動バスについて

称名滝をより多くの観光客に見てもらうために、電動バスを走らせる予定がコロナ禍でとん挫している。シニアカーなど町として取り組んでいるが、社会的弱者と言われる人やたくさんの人を運ぶことのできるバスの代わりはできない。県も苦慮しているようだが強く要望していただきたい。